



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラク新国会の召集

(2010年6月15日報道取り纏め)

研究員 河井明夫

6月14日、フセイン政権崩壊後、2番目となる国会の第1回会合が召集された。3月の投票から3カ月以上を経て開かれた同会合は、国会議員の就任宣誓などが行われただけで、わずか20分程度で終了した。

憲法の規定に則り、最年長の国会議員、ハサン・アラウィーが暫定議長を務めることになっていたのだが、アラウィーが健康上の理由のためこれを辞退したため、アラウィーに次ぐ年長のフアード・マアスームが暫定議長を務めた。本来であれば、暫定議長の主宰により恒久の国会議長、及び同副議長2名を選出することになっていたのだが、「更なる協議の必要性」を理由にマアスーム暫定議長は同会合の無期限延長を宣言した。その背景には、フセイン政権崩壊後、イラクでは首相はシーア派、大統領はクルド人、国会議長はスンナ派アラブ人がそれぞれ就くという暗黙の了解ができており、現在、首相候補の一本化が難航する中、その他のポストもひっくるめたパッケージでの合意が各政治勢力間でなされていないという事情がある。首相、大統領、国会議長の主要三ポストについて合意がなされるまで国会第1回会合は無期延期とされたことになる。

憲法によれば国会議長選出後、国会は第1回会合召集から30日以内に大統領を選出すると規定されている。大統領は自らが選ばれた後15日以内に、最大会派が推す首相候補に組閣を要請することになっている。首相候補は30日以内に組閣を行った上で、国会の承認を得なければならない。このように憲法では新政権樹立までにきめ細かいタイムスケジュールが定められているのだが、同じ憲法下で行われた2005年末の選挙による前国会の第1回会合は実に41日間も延期された経緯がある。西側外交筋の間では、8月10日頃から始まる断

食月（ラマダーン）まで新政権は樹立されないとの見方がある。

政治的空白が治安の悪化に繋がることへの懸念が高まる中、政治プロセスの最大の障害となっているのが首相候補選りである。この問題は二段階になっている。第一段階は、憲法第76条第1項にある「国会の最大会派」が今回の場合、どの会派（政党連合）に該当するかという問題である。この最大会派が推す首相候補者に対して大統領が組閣を要請すると規定されているのだが、3月の国会選挙で最大議席（91議席）を獲得した世俗会派イラーキーヤと、6月10日に正式合併し合計159議席を占めるようになったシーア派連合「国民同盟（National Alliance）」の双方が自分たちこそが、憲法第76条でいう「国会の最大会派」だと主張して、妥協点が見出せないでいる。

問題の第二段階は、この新会派「国民同盟」の内部で首相候補の一本化ができないでいることである。89議席で合併に臨んだ法治国家連合は自分たちの代表であるマーリキー首相の続投を強く訴えているが、合併のもう一方の当事者「イラク国民連合（INA）」（70議席）の中には、反米強硬派のサドル派を始めとしてマーリキー続投に猛反対している勢力が存在する。法治国家連合とINAの間で一方が首相候補を、もう一方が新会派の代表（党首）を出すという案も出ているというが、それでも調整は難航している。そうした中、余り脚光を浴びてこなかった無名の政治家が「妥協の候補者」として国民同盟の首相候補に担ぎ出される可能性も取りざたされている。

（了）